

教員による取組



【出前講座】

大学の研究成果を社会に還元する取組の一環として出前講座を実施しています。大学ウェブサイトにはバラエティーに富んだ115講座を掲載しており、県内各地の学校や公民館などのリクエストに応じて、教員が現地に赴き授業を行いました。

◆実施講座数 19講座



出前講座



【公開講座】

地域の皆さまに生涯学習の機会を提供するため、本学教員が自らの専門分野の講義を行う公開講座を全12回実施しています。今後も本学の専門性を活かし、教育や研究の成果を広く社会に紹介し、多岐にわたるテーマの講義を企画してまいります。

◆参加人数 954名



公開講座



【外国語教育研究所】

県内高校生を対象としたグローバル人材育成事業「明石塾」、高校生英語コンテスト「明石杯」、高等学校連携英語授業などを実施しています。

また、海外事業展開もしている県内企業でのビジネス英語研修、玉村町内小学校の英語授業支援、幅広い年齢層の方が研究員との英会話を楽しむ「グローバルカフェ」などに取り組みました。今後もこれらの活動をさらに充実させ、積極的に地域の皆さまに貢献してまいります。

◆高等学校連携英語授業 計11回（6校） 受講した高校生 932名

◆グローバルカフェ 計21回（780名）



外国語教育研究所



【群馬学センター】

群馬学センターでは県内の歴史・社会・文化に関するセミナー及び講演会の開催や、書籍の刊行をしています。年に2回開催している「群馬学連続シンポジウム」は今年度までで48回を数えています。また、令和4年度からは史料の読解を通して地域の歴史と文化を学ぶ「群馬学連続セミナー」を開催しています。

群馬学センター資料室では郷土史家荻原進氏の蔵書を中心に約6,500冊の群馬関連の図書を公開しており、一般の方でもご利用いただけます。

◆群馬学連続シンポジウム（2回開催） 参加人数 233名

◆第7期・群馬学連続セミナー（全8日開催）参加人数 534名

第8期・群馬学連続セミナー（全6日開催）参加人数 376名



群馬学センター



【地域日本語教育センター】

在住外国人が地域社会で生活する上で大きな課題となっている日本語教育の拠点として、日本語教室の開催や、日本語ボランティアの方を対象とした研修会などを行っています。また、昨年度に登録実践研修機関及び登録日本語教員養成機関として登録され、国家資格である「登録日本語教員」の養成にも力を入れています。

◆地域日本語教育講演会 参加人数 71名

◆日本語ボランティアスキルアップ研修（2回開催）参加者数 92名



地域日本語教育センター

【審議会・委員等】

群馬県内高等学校学校評議員／群馬県地方労働審議会委員／群馬県市町村振興協会評議員／富岡市立美術博物館評議員／群馬県文化財保護審議会防災部会専門委員／ぐんま男女共同参画センター運営会議会長／群馬県景観審議会委員／群馬県内市町村景観審議会委員／群馬県文化財防災ネットワーク連絡協議会会長／群馬県地域創生部指定管理者評価委員会／文化施設専門委員／群馬県教育人材総合支援協議会委員／玉村町多文化共生地域づくり検討委員会委員長／玉村町公民館運営審議会委員長／玉村町歴史浪漫たまむら委員会委員／玉村町総合戦略推進協議会委員／玉村町指定管理候補者選定委員会委員／前橋市社会教育委員会委員／太田市資料館等運営委員会委員／藤岡市文化財保存活用地域計画策定協議会委員／国立国会図書館納本制度審議会委員／皇居三の丸尚蔵館所蔵文化財（絵画）保存修理事業審査委員会委員／株式会社工フエム群馬 放送番組審議会委員 など（順不同）

「群馬県立女子大学 2025年度 地域・社会貢献活動報告書」 2026年3月発行
群馬県立女子大学 〒370-1193 群馬県佐波郡玉村町上之手1395-1 TEL 0270-65-8511(代表)



群馬県立女子大学

2025

地域・社会貢献活動 報告書



GUNMA PREFECTURAL WOMEN'S UNIVERSITY

国文学科・英米文化学科・美学美術史学科

近隣の中学校での放課後学習教室の支援



地域の中学校などで運営されている放課後学習教室に教員を目指す学生が出向き、中学生の自学自習の支援を行っています。学生たちは中学生の皆さんの学びを支えながら、教えることの体験を通じて、「先生への道」を歩んでいます。

「学校現場でICT教育実践」プロジェクト



学校現場では、GIGAスクール構想の下、電子黒板、タブレット等のICT(情報通信技術)機器が活用されています。教職課程では電子教科書やクラウド型授業支援アプリの活用方法を学ぶとともに、地元教育委員会とタイアップして実際に小中学校で先生の補助や授業をすることでその実践能力向上を目指しています。

文化情報学科

「フィールドワーク基礎」で教室の外に飛び出す



文化情報学科必修科目の「フィールドワーク基礎1・2」では、学問的な問いの立て方や深め方、資料やデータ収集の基本的な方法を学びます。実際に県内外の調査地に足を運び、人びとの暮らしやコミュニティ、地域資源についての調査を行います。

「ジャパンサーチ」と連携して、地域の文化資源を紹介する



日本のデジタルアーカイブをつなぐポータルサイトが「ジャパンサーチ」です。このサイトの機能を利用し、学生たちが文化資源を「地域」の切り口でまとめて紹介するデジタル展示を作成しています。展示内容は「ジャパンサーチ」の利活用事例として、公式サイトで紹介されています。

国際コミュニケーション学部

「群馬の地酒動画コンテスト2025」最優秀賞受賞



「群馬の地酒動画コンテスト2025」において、国際コミュニケーション学部3年生R.Fさん、A.Kさんの作成した動画が最優秀賞を獲得しました。

主催：群馬県酒造組合
共催：群馬県
後援：関東信越国税局

「Let's Play Games～英語でゲームできるかな～」企画・開催



「GCプロジェクト学習(2)」の履修生11名が、地域の小学生を対象とした英語のイベント「Let's Play Games～英語でゲームできるかな～」を企画・実施しました。イベントでは4つの英語を使ったアクティビティを準備し、子供たちのレベルにあった英語表現を使うように工夫しました。町内外から30名を超える小学生の参加があり、大盛況でした。

国際コミュニケーション学部

玉村町魅力発信機構と連携したInstagram運営



2年生3名が、玉村町魅力発信機構と連携して玉村町の魅力を伝えるInstagram記事を作成しています。この取組は、国際コミュニケーション学部の初年次授業「問題解決のスキルと実践」で毎年実施している玉村町活性化プランコンテストにおいて、学生が立案したプランを起点として誕生した事業です。

群馬県警との連携プロジェクト



グローバル・コミュニケーション課程の「GCプロジェクト学習(1)」では、日頃学んだ異文化コミュニケーションのトピックを実際に社会の中で見いだすことで「文化や言語の多様性」とはなにかを学びます。今年度は高崎市内のレストランや群馬県警の通訳官と協力し、在留外国人向けの生活安全・交通安全に関するパンフレットやポスターを作成し、イベントを実施しました。

国文学科

絹文化！お国ことば調査プロジェクト



世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産のひとつ「高山社跡」(藤岡市)を中心に活動しています。中之条町にある「お蚕さんの里」(重要伝統的建造物群保存地区)で開催されるふれあい感謝祭にも参加して、養蚕ことばのパネル展示とその解説を行いました。活動の様子や研究成果の報告はウェブサイトで公開中！

美学美術史学科

病院内アートプロジェクト (出土遺物のランプシェード)



角田病院とのアートによるコラボレーション「あかり展」を開催しました。病院の利用者、職員に少しでも心を和らげてもらえるよう、「癒しの記憶」をテーマとしたランプシェード作品を病院内ギャラリーで展示しました。玉村町で出土した遺物をもとにした作品を、授業「デザイン4(実践)」の受講生9名が考案しました。

美学美術史学科

サントリー生ビール 群馬限定缶のデザイン



サントリー株式会社が、「サントリー株式会社(天然水のビール工場)群馬」で製造する「サントリー生ビール」を広く県民に知ってもらうため、県内大学を対象に群馬県産オリジナルビール缶デザインを公募しました。本学からは実技ゼミ(絵画・デザイン)20名が参加し、絵画ゼミ生の作品が選ばれ、2年連続の採用となりました。

伊香保アートプロジェクト



実技ゼミ(絵画・デザイン)が地域連携として2011年度から携わってきた「伊香保手ぬぐいアート展」は、昨年度から活動を再開しました。学生がデザインした手ぬぐいののぼり旗に仕立てて、石段街で展示し、投票にて選ばれた作品は、ノベルティとして配布されました。

玉村八幡宮での等身大ロールプレイングゲーム『玉龍鬼譚-零-』



芸術プログラム「芸術の現場へ3」では、地域の方々やアーティストと連携してイベントを制作しています。今年度は、小学生向けの等身大RPG。役者さんが演じるキャラクターと会話し、ゲームで戦ってアイテムを集め、ボスに挑みます。道具、衣裳、台本など全て学生が手掛けました。

富士スバルとの連携(桐生店 夏季制服アロハ・片品村 寄贈車のデザイン)



今年度は2つのプロジェクトを絵画ゼミが実施しました。桐生店夏用接客服を地元企業KIRYU ALOHAと連携し、4種類のアロハシャツデザインが採用され実用化しました。片品村へ寄贈するBEV車の両側面に使用されるデザイン案を制作し、1点が採用されました。

「広瀬川アート」出展



大学と地域とのアートによるコラボレーション「広瀬川アートV」を開催しました。前橋のまちなかを訪れる方々に、地域の魅力や新たな風景の楽しみ方を感じてもらえるよう、「未来をつなぐGUNMAのデザイン」をテーマとした作品を広瀬川周辺で展示しました。実技ゼミ(デザイン7名、絵画1名)の学生8名が作品を考案・制作しました。

様々なデザインによる地域連携



デザインゼミでは、デザインを通して、毎年様々な地域連携を行っています。今年度は以下のデザインによる連携を行いました。
①玉村町「芸能発表会」ポスター・チラシデザイン
②玉村町「総合芸術展」ポスター・チラシデザイン
③日本看護教育学会ポスターデザイン

JAF群馬支部との連携



今年度は以下の4事例について制作し、それぞれ県内に展示、配布されました。
①交通マナー向上のための啓発のぼり旗のデザイン(デザインゼミ)
②夕暮れ時ライト点灯の目的を主とした横断幕のデザイン(絵画ゼミ)
③飲酒運転をなくす目的で使用される横断幕のデザイン(デザインゼミ)
④自転車事故を減らすための反射キーホルダーのデザイン(絵画ゼミ)

たかさき雷舞フェスティバル ノベルティだるま



毎年10月に、群馬のよさこい祭り「たかさき雷舞フェスティバル」が開催されます。実技ゼミ(絵画・デザイン)22名は、この祭りに参加するダンスチームへ贈られる参加賞を制作しました。それぞれのチームの特徴を取り入れたオリジナルのノベルティだるまです。当日は全てのだるまを会場に展示し、来場者の注目を集めました。

富岡市観光交流課との連携事業



アートマネジメントゼミでは富岡市観光交流課と連携し、街中の店舗や公共施設に学生と教員の作品を展示する「富岡まちかどアートめぐり」を実施しています。また、市役所前広場及び議会議場を活用した子ども向け造形ワークショップを2022年度から開催し、アートを通じて交流を続けています。

美術館との連携



アートマネジメントゼミ及び演習の授業では、2013年度から継続して群馬県内の7つの美術館等と連携し、主に子どもを対象とした、造形プログラムの企画立案、実践を行っています。学生が主体となって、だれもが親しみやすいプログラムを実施しています。今年度は近代美術館、館林美術館、高崎市美術館、渋川市美術館、大川美術館、富岡市立美術館、前橋文学館と事業を行いました。